パフォーマンスや
舞台演出、記録方法も！

カッコいい

文化祭で素敵な
記憶と記録を残そう

文化祭ライブの魅せ方／残し方

文化祭ライブは、人気者になれるチャンス！ 記憶に残るカッコいいライブを見せて、さらにその模様をきちんと記録して残しておきたいところ。そこで、パフォーマンスの基本や記録方法のノウハウを紹介。活動が盛んな軽音楽部に、文化祭で実践している工夫も教えてもらった。

記憶編 ステージ作りとパフォーマンスのトリセツ

何よりもまず、いいライブをすることが大切！ ライブを行う際の基本とパフォーマンスのコツを紹介しよう。

ライブを行う上での基本中の基本

文化祭ライブは準備段階から始まっている！

ライブ前の弦交換は必須！ 音の好みにもよるが、前日のうちに交換したほうが弦が馴染んでチューニングが安定し、ピッチも良くなる。張り替えたあとは弦を引っ張って伸ばしておこう。また、トラブル予防策も忘れずに。ピックを落としたときのためにピックホルダーを用意したり（ギターのヘッド裏などに貼り付けておくのも◎）、演奏中にストラップが外れないようロックピンを取り付けるなど。

また、持ち物もきちんと確認！ ピックや弦の予備は必ず用意を。弦が切れたときもすぐ交換できるようワインダーもあると安心だ。シールドケーブルも予備があると良いだろう。ケーブルの固定や機材トラブルの応急処置など、さまざまな用途で使えるガムテープもあると心強い。タオルや水分補給用の飲み物も必須。その他、曲順表やMCのカンペもあるとベター。

電池関連は要チェック！

◀エフェクターの電池切れもよくあるトラブル。ACアダプターを使うのがベストだが、難しい場合は前日にチェックを。

ロックピンでトラブル回避

◀演奏中のギター落下は避けたいところ。ロックピンは一度取り付ければワンタッチで着脱できるのでオススメ。お手頃価格のストラップロックでもOKだ。

文化祭ライブの持ち物リスト

- □予備のピック
- □予備の弦
- □チューナー
- □ケーブル
- □クロス
- □汗を拭くタオル
- □飲み物
- □ガムテープ

セッティング時の基本

セッティング／本番前のひと手間が成功のカギに！

音作りは練習時に固めておくのが大前提だが、演奏環境が変わると音の響き方が変わるので、リハーサル時に微調整しよう。セッティング後は、設定をメモするかツマミの写真を撮っておこう。本番で最大限のパフォーマンスができるよう、ケーブル抜けを防止したり、チューニングが狂わないようにするひと手間は惜しまないように。

ケーブル抜けを防ぐワザ

◀ケーブルをストラップ脇の後ろから前に通し、ジャックに差す。これだけで抜けにくくなる。

チューニングは忘れずに!!

▲▶気合が入りすぎて力んでしまったり、照明の熱でチューニングが狂いやすくなる。MC中などこまめにチューニングしよう。ヘッドに装着するだけのクリップ式や、エフェクターボードに組み込めるペダル式がオススメ。

カッコいいパフォーマンスで記憶に残るライブに！

簡単＆カッコいい動作を！いずれも恥じらいは禁物

カッコいいパフォーマンスをしてこそ、ライブは盛り上がるもの。手を頭上に挙げたり、ギターを掲げる動作は簡単なのでオススメ。その他、キメの部分でジャンプ、弾きやすいフレーズでヘッドバンギング（ヘドバン）や背面弾きを行うなど。ただし、パフォーマンスに集中しすぎて演奏がおろそかになっては元も子もないので注意！ 動きも入念に練習しておこう。

前方に出てギターやベースを掲げる

都立練馬高校 軽音楽部

堂々とパフォーマンスして盛り上げる

多摩大学目黒高校 軽音楽部

◀ギタリストはここぞという場面で前に出るとカッコいい。ハンドボーカルの場合はパフォーマンスはマスト！ 身振り手振りで観客を積極的に煽ろう。

ライブ成功の秘訣は裏方にあり！ 運営／演出の工夫

他の学校はこうしてる！

演奏者を支える裏方スタッフの活躍が文化祭ライブでは重要！

運営は部員自らが行うと、一致団結して思い出に残るはず。運営の流れを知っておけば、自分が演奏する際にPAや照明にリクエストを出しやすくなる。照明に関しては、本格的な機材を使う学校もあれば、あえて手作り感を活かす学校もある。また、演奏中の映像をリアルタイムで壁やスクリーンに映し出す学校も。その他、パンフレットやタイムテーブル、舞台セットを作成したり、転換中に場をつないでお客さんを飽きさせない工夫を行っている学校も多い。

●転換時間を早くして、MCや演出もグダグダにならないように事前に考えておく。●ライブハウスを1週間前に借りて《裏文化祭ライブ》を実施。リハーサルを兼ねるのはもちろん、ステージ慣れしておくことを重視。**（練馬高校）**
●全日程全バンド全曲掲載プログラムを配布。●設営を何度か繰り返すため、どれだけ短時間で行えるかに注力。機材のまとめ方、配線を間違えずに行うための印のつけ方、手順の徹底など。**（中大杉並高校）**
●照明機器を揃え、スモークなども焚いて、ライブハウスやフェスの雰囲気に近づけられるように演出。●リハーサルのために一日体育館を貸し切り、転換や照明など運営面を学べる機会を作る。●転換時は部員がライブを終えたバンドにインタビュー。**（多摩大目黒高校）**
●照明／PA／転換誘導／司会／プログラム／タイムキーパーなど班を作り、すべて部員で運営。●司会班を作り、場の空気を明るく、オーディエンスとの一体感が出るようにしている。●当日の状況がすぐわかるよう、Twitterで細かくツイート。**（武蔵丘高校）**
●セットや看板、タイムスケジュールは部員の手作り。●照明に力を入れており、照明やPAの操作はすべて部員が行う。●バンド紹介のパンフレットを作って配布。**（駒澤大学高校）**

照明やスモークで雰囲気を出す

都立武蔵丘高校 軽音楽部

◀武蔵丘高校は、曲の雰囲気を表現できるようにスモークや照明を使用している。

スクリーンを駆使！

中央大学杉並高校 音楽部

◀中央杉並高校では、演奏中にバンド名とアーティスト写真、ライブビューイング映像などを映している。

転換中も飽きさせない工夫を

中央大学杉並高校 音楽部

◀転換時は各校工夫している。中央杉並高校の場合は転換時に弾き語り演奏を実施。

記録編 思い出をカタチに！ 写真撮影／共有の方法

続いては、演奏の様子を撮影して後日共有するためのコツを紹介。今回はスマートフォンに特化しているぞ。

スマホでライブ写真を撮影してみよう

スマホでもいい写真は撮れる！

設定は右の3要素がポイントで、絞りは最小限、SSは遅すぎないように。また、解像度（≒画像の鮮明度）を最大にすると加工・調整時に便利。撮影のときはブレないように脇を締め、ピントを顔に合わせて静かにタップ。強くタップすると振動でブレてしまう。大半のスマホはズームすると画像が粗くなるので、なるべく近くで撮ることも大切だ。

基本的には、被写体が止まった瞬間を狙うのがベター。ギターやベースはハイポジションを押さえている瞬間を狙うと“弾いてる感”が出る。下から撮ったり、手元やエフェクターを踏む足元を寄りで撮るのもアリだ。ボーカルやコーラスは、真正面から撮ると顔にマイクがかぶるので、斜め横から撮ると良い。ドラムの撮影は難易度が高いが、動きの少ないフレーズを叩いている瞬間を狙おう。なお、レンズに指紋や汚れが付いているとキレイに撮れないので、撮影前に拭いておく。

アクセサリーも使ってみよう！

▶スマホ用の望遠レンズなら、ズームしても画像が荒れない！ 広角や魚眼レンズを使ってもカッコ良く撮れる。写真はOYRGCIKのスマホ望遠レンズ。

設定時の基礎知識

撮影で大切な“カメラに取り込む光の量”を調節する3要素。

●シャッタースピード（SS）
シャッターが開く時間のことで、光量とブレに関係する。速いほど被写体の動きがピタッと止まるが、そのぶん暗くなる。シチュエーションによるが、1/60秒は欲しいところ。

●ISO感度
弱い光をどの程度記録できるかを示す値。上げるほど明るく撮れるが、そのぶんノイズが出てザラザラした写真に。オートで撮ってノイズが気になったり明るすぎるなら低くしよう。

●絞り（F値）
取り込む光量を調整する部分で、数値が低い“開放”状態ほど明るくなり、背景がボケる。機種によっては固定の場合も。

構図を工夫しよう

中央大学杉並高校 音楽部

◀こちらは一眼レフで撮影したものだが、ぜひ構図を参考にしてほしい。下から煽ったり、斜めに撮ると躍動感が出る。

中央大学杉並高校 音楽部

▶観客の手を入れることで、ライブの盛り上がりが写真から伝わってくる。

もっとも大切！ 撮影時のマナー

ライブは直に観て熱を感じ楽しむことが一番大切。そのため、撮影時もお客さんの邪魔にならないことが大前提だ。

主な注意点は、後ろにいる人の妨げにならないように、スマホは自分の目線より上に構えないこと。また会場の雰囲気を壊さないよう、液晶の明かりはできるだけ暗くしておこう。演奏中にシャッター音が聴こえるとシラけてしまうので、一番小さい音量に設定して、バラードや音数が少ない静かなシーンでの撮影は控えよう。撮影係を担当する人は、撮影ブースを設けたり、“撮影係”と書かれた腕章や名札を付けておくのもオススメ。

そもそも、撮影されること自体を好ましく思わない人もいるので、事前に撮影して問題ないか本人と顧問の先生に許可を取ろう。SNSなど多くの人の目に触れる空間に公開する際も同様で、アップロードする前に必ず本人に確認を。余談だが、プロのライブなどでは撮影が禁止されていることが多い。そういった場所での撮影はご法度だ。

撮影に夢中になりすぎるとライブを楽しめないので、ずっとカメラを構えるのではなく、ここぞと言う瞬間を狙おう。そのためにも、撮影のコツを頭に入れておくことが大切だ。リハーサルのときに試し撮りして撮影設定を決めておくのも良いだろう。

思い出はみんなで共有しよう！

無料のツールで共有したり プリントして部室に掲示しよう

いい写真が撮れたら、みんなで共有しよう！ブレた写真など明らかに失敗したものは選り分けて、必要であれば調整や加工も。イマイチかも…と思った写真でも、モノクロ加工などをするとサマになる場合がある。共有方法としては、LINE でアルバムを作ったり、無料の共有ツールを使ったり、CD-R に焼いてみんなで回すなど。特に上手く撮れたものは、プリントして部室に掲示するのもオススメだ。

LINE や無料ツールを活用しよう

◀Google の共有ツールや AirDrop など、無料の共有ツールはたくさんあるので、積極的に共有しよう。

他の学校はこうしてる！

●写真は Googleドライブ、ビデオは YouTube にアップし共有。場合によっては一般公開も。**(練馬高校)**
●インターネットを通じてアップして各自がダウンロードする。**(駒沢大学高校)**
●撮影係が撮影したものを AirDrop やグループ LINE などで共有。**(多摩大目黒高校)**
●撮影者が AirDrop か LINE でバンドメンバーに共有している。**(武蔵丘高校)**
●基本的に LINE グループ上にアルバム作成。一部 Googleフォトも利用。**(中大杉並高校)**

番外編 文化祭ライブが盛んな学校の実例

その他、アンケートを行った各校が実践している工夫の数々を紹介。ぜひ参考にしてほしい。

東京都立武蔵丘高校

★写真は部員同士で撮影。オーディエンスの迷惑にならないよう、あらかじめ撮影席を用意している。★オリジナル CD を販売。★中庭では弾き語りライブを行っていて、その日だけのバンドを結成することもできる（写真）。

多摩大学目黒高校

●軽音楽部の T シャツはお揃いのものを毎年作っている。●今年は写真部に依頼して、初めてアーティスト写真を撮影し、撮ったアーティスト写真はバンド出演前の転換時にプロジェクターで壁に大きく映し出した。●サイリウムを 2 日間で 200 本購入し、来てくれたお客さんに配布したり、またライブ中に風船を客席にまいたりして、お客さんも楽しんでもらえるように工夫。●今年は顧問の老谷先生（※編集部注：先生は現役バンドマン）のバンド sloth の曲「Dreamer」をコピーして、老谷先生が歌唱。結果、今年の文化祭のアンケートの投票において、クラブ部門で優勝することができました。●学校のホームページで軽音部の活動は随時報告（※本誌が取材した際もホームページに掲載していただきました）。

東京都立練馬高校

●文化祭ではオリジナル曲だけではなく、コピー曲も演奏。●あえて体育館など広いところには出ずに、2 日間視聴覚室で実施。体育館では集客が見込めず、盛り上がりも少ないので、視聴覚室を満員にして濃密なライブ空間を作ることを心がけました。●文化祭は高校生バンドにとって最大の発表の場なので、企画バンドは組まずに、なるべく同じバンドが長い時間演奏できるように工夫。

中央大学杉並高校

★本番前には全バンドが自分のバンドのアーティスト写真を撮影し、SNS プロモーションに利用。Twitter を中心としてプロモーションを展開し、校内だけでなく他校の軽音楽部の仲間が来てくれるように呼び掛けている。★部内に一眼レフを操る“撮影班”があり、基本的に全バンド撮影。★オリジナル曲収録の CD を 700 枚配布。レコーディングやミキシング、ジャケット制作は部員によるもの。★毎年、文化祭テーマソングを作詞・作曲。レコーディングやミキシングもすべて部員によるもの。★テーマソングの音源を利用して PV を作成。企画／監督／撮影／編集まですべてを部員が行う。★ YouTube 上に部活のプロモーション用再生リストを作り、文化祭の PV をはじめ、出来の良いライブ映像や、コンテストイベントなどで撮影してもらった動画の掲載・宣伝（QR コード参照）。

駒澤大学高校

★音楽部のオリジナル T シャツを毎年作る。★大ホールの体育館と小さい教室の 2 箇所でライブを行い、変化をつけている。★写真撮影はプロカメラマンに委託。★部員事情によって顧問がバンドに加わったり、部員を集めた企画バンドで演奏することも。